

<今朝の聖書から>

【讚美のうちに】聖書箇所は先週のつづきになります。一同は讚美の後にゲッセマネに向います。新聖歌ですと384,444等、この箇所の聖句に曲をつけた讚美は沢山あります。“裏切りによる死”また“復活”の勝利の宣言がなされた直後です。主に従う弟子達の心は緊張してはいたはずです。

【死からの御よみがえり】ここでもう一度、よみがえりの宣言がなされます。“よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう(28節)”とあります。私たちの教会はこの信仰に立って営まれているのです。

【決心】14:29に“みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません”というペテロの発言が記録されています。これがペテロの決心です。

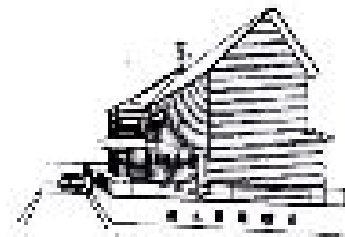
【私たちの決心】信仰に導かれた時、私たちも同じ決心をします。この世の誘惑の全てに打ち勝つ信仰が与えられたと思います。そして多くの証しをします。救いの経験を、山のような逆境の中で皆がするのです。しかし、私たちが知っているように、仮に今、彼がそうでなくても、多くの証が空しいものになって行きます。“あの兄弟姉妹が”と思うほどに、熱心な信仰者が、乾いて行くことがあります。大きな試練に勝てないのです。信仰上の問題というよりも、この世のなみかぜに勝てない姿かもしれません。“苦しい時の神離れ”という傲慢が未信者のようにやって来るのです。

【弱い決心】最高に熱心に求め、決心にまで導かれた魂も、弱いのです。弱いのだということを知っている人が、逆に強いのかも知れません。どのような逆境まで、信仰に立っていることができるのか想像してみれば分かるでしょう。家族の全員に反対されたり、大きな不幸を経験したりした時、不幸に打ち勝った経験が信仰に導いたとしても、そのことが忘れられ、教会と信仰から離れ、(キリスト教信仰そのものは否定するわけにもいかない)何か理由が付けられるのです。“牧師の性格が気に入らない”とか“教会には派閥がある”等がその代表かもしれません。

【弱い肉体】聖霊の宮に私たちは喩えられます。神の力を持ちながら、言葉を持たれない聖霊は、私たちの肉体のうちにのみ住まわれます。“神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか(コリント3:16)”とある通りです。ですから、“心は熱しているが、肉体が弱いのである(38)”という御言葉に聞き、相応しい肉体を、その日が来る前に用意しなければならないのです。それは“信仰生活を過ごす余裕がある”等というものの反対です。“如何なる現実にも対処できる余裕がある”ということでしょう。“まだ眠っているのか、休んでいるのか。もうそれでよからう(14:41)”という主イエスの声が聞こえます。目覚めていきましょう。

週報

2010年 9月 26日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042